



実施報告⑧ 生物部1年生による文化祭企画「チリメンモンスターを探せ」 愛知県立一宮高等学校 原 いずみ

1 プログラムの概要とねらい

本校の生物部1年生は、夏休み中の部活動で磯の生物の観察やウニの発生観察を行った。その際、動物の分類形態学について学習し、海にはさまざまな分類群の生物がいることに興味を覚えた。そこで、文化祭でチリメンモンスターを用いた本企画を実施し、身近な食材「ちりめんじゃこ」の中に、多様な生物が潜んでいることを参加者に伝えることにした。ポイントは、「ゲーム性があり、宝さがしの感覚で楽しめる」、「年齢や知識の有無によらず、誰でも簡単に参加できる」、「チ

リモンのなかにいるさまざまな種類の生物がどんなものなのかを知ることができる」である。文化祭の企画であるため、普段は生物に興味を示さないような生徒や、来校された特別支援学校の児童生徒などが気軽に参加できるように心がけた。また、チリモンのオリジナルハンコを作成し、参加者が見つけたお気に入りのチリモンを、ハンコを押した台紙に貼りつけてお土産にすることで、形に残そうと考えた。チリモンを広く知ってもらうため、工夫を凝らして企画にとり組んだ。

2 企画実施にあたっての事前準備

① 生物部員によるチリモンさがし

参加者にPRするためにも、生徒自らチリモンについて学び、楽しさを知ろうと、チリモンさがしを行った。

② チリモンについての調べ学習

図書館や顧問から借りた書籍などで、チリモンについて調べて予備知識をつけ、チリモンハンコのためのスケッチも行った（図4-41）。



図4-41：見つかる頻度が高いものをチリモンハンコの図面用にスケッチした



図4-42 段ボールで作成した専用の箱に入れたチリモンハンコ

準備物

- チリモンさがしにかかる材料
チリモン入りちりめんじゃこ、バット、ピンセット、ルーペ、画用紙（白、赤、青、黄）、マーカーペン
- チリモンハンコ作成にかかる材料
消しゴム、木材の切れ端、スタンプ台、段ボール
- その他発表にかかる材料
ラミネーターとフィルム、幅が広い透明な粘着テープ、模造紙、メガロバ幼生のペーパークラフト、参考資料

③ チリモンハンコの作成

生物教員が指導し、生徒一人一人がオリジナルのチリモンハンコを制作した（図4-42）。白い画用紙をはがきサイズに切ったものにスタンプした見本を用意した。

④ 手順書の作成

ハンコで装飾した手順書「How to チリモン」を作成。わかりやすくするため、手順の数を減らした（図4-43）。

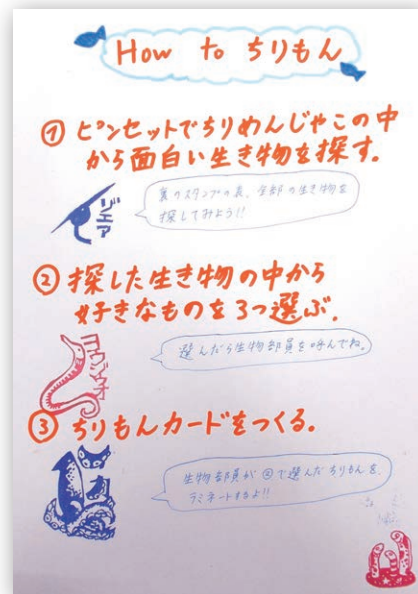


図4-43

⑤ チリモン台紙の作成

お土産用のチリモンを貼りつける台紙を作成した。画用紙を4×4cm程度に切り、「一宮高校生物部」と文化祭の日付を入れ、チリモンハンコを押した（図4-44）。

図4-44 台紙にはさまざまな色の画用紙を、またスタンプ台も何色か用意し、参加者が好きな色を選択できるようにした



⑥ 会場設営

長机に必要な道具、手順書、ハンコ、参考資料などを並べた。複数の机で、チリモンが偏らないよう均等に分けた。タツノオトシゴなどのレアなチリモンは事前に採集し、参加者に見てもらえるようにとり分けておいた。メガロバ幼生のペーパークラフトで会場を飾りつけた。

⑦ 広報活動

宣伝のため、模造紙にチリモン企画の紹介文を書いて生物講義室の外の廊下に掲示した（図4-45）。



図4-45

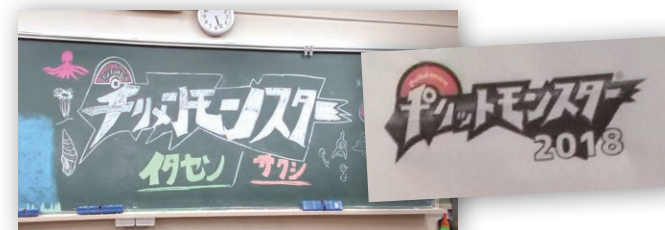


メガロバ幼生のペーパークラフトは、いこまる氏のHP「生駒自然図譜」を参照した

学習の成果と評価

今回の企画で、生物部員からは、「ハンコが人気だったので、作成してよかった」、「会場の装飾を工夫したので、雰囲気が出ていた」、「チリモンについてもっと勉強しておけば、参加者の質問に対しても答えられたし、より詳細に解説できた」、「SNSの利用など、宣伝方法を工夫すればチリモンを知らない多くの生徒に対して、呼びかけることができたのではないか」といった感想が聞かれた。約2週間という短い文化祭準備期間で、生徒自身の知識不足や、宣伝活動に出遅れた点は、来年度以降の企画を実施する際の反省点である。生徒の口コミや呼びかけだけでなく、SNSの活用、早い段階からのポスターの設置も検討すべきだろう。

参加者からは「面白かった」、「チリモンをはじめて知った」という声もあり、当初の目的である「チリモンの面白さを知ってもらう」ことは達成できたと思う。今回の企画



2年生の部長からの提案で、「ポケットモンスター」にちなんで「チリットモンスター」というロゴをつくり、会場の黒板に描いたり、ピラをつくったりした

3 文化祭のようす

・当日の流れ

- ① 参加者にチリモンをさがしてもらう。
- ② 3つ選んでもらったチリモンを台紙に置く。
- ③ 粘着テープで空気が入らないように注意しつつ封入。
- ④ 発見したチリモンの種類を説明する。

・実施のようす

当日は台風の影響もあり、来校者は少なかったが、事前にしっかり準備を行った甲斐あって、参加した生徒や教員からは高評価が得られた。生徒たちは少ない人数で役割分担し、参加者に対して一生懸命に説明する姿が見られた（図4-46）。企画を行った生徒自身も楽しめる内容になったのではないかなと思う。



図4-46 参加者がレアなチリモンについて質問すると、うれしそうに自分が見つけたレアチリモンを見せて解説していた

の目玉であるチリモンハンコについては好評だったので、今後も種類を増やしていくことを生徒は計画している。

今回の企画では、高校生が楽しみながらチリモンにふれることができた点がよかったと考える。文化祭は、生徒たちが主体的に計画を立て、工夫を凝らして企画を運営することが求められるが、今回「チリモンを知ってもらいたい」という共通の目的の下、部員は全員が楽しんで準備し、協力していた。さらに、はじめての文化祭企画の運営を行う1年生に、2年生がその頑張りを応援しようとピラを作成したり、助言を行ったりする姿が見られた。これは、普段の学習活動からは得られない、非常によい経験となっただろう。「協力して一つの企画を成功させること」や「参加者に楽しんでもらうためにすべきこと」、「わかりやすい説明を行う工夫」など、生物部として研究発表を行う際に重要なことも、併せて体験的に学習することができたので、この経験を今後の活動にも活かしていってほしいと思う。